

BB通信

10月 vol.02



×



9月23日、秋季阪南支部予選の敗退から一ヶ月が経過、2年生の選手達の練習に対する取組みに変化が出てきました。「このままでは…」そんな意欲を感じます。年内は大きな大会がありません、目標とする春の大会、その先、すでに調整期間はスタートしています。悔しい思いをした投手は平日練習の真っ暗なサブグラウンドで黙々とシャドーピッチングを繰り返していました。選手の小さなメッセージを見逃さずじっくり調整を行っていきたいと思います。温かく見守っていきましょう。

『信頼関係』

指導者は忍耐力が第一、次に観察力、と徹底的に教わった我チームの指導者。5年も経つとかなり会話の中身が濃く感じます。「最近、〇〇は表情良くなってきたね。」「〇〇は取組む姿勢が変化したね。」かたや、「〇〇はこっちの言うこと返事してるけど、聞いてないね。」そんなコメントも耳にします。彼らとの信頼関係も一進一退です。子供達こそ、観察力がありますから。「あっ、この子は何か違う技術指導が入っているな～。だからあんまり言うことに反応しないな。」これは、長年関わっていますが、あまり良い傾向ではないですね。迷いますし、頭打ちすることが多いです。家庭での何気ない会話、一言、彼らは聞いていないようで、よ～く聞いています。この時期は答えを与えるのではなく、自分で探す、模索する。それが野球だけでなく将来へとつながる。つつい言いたくなるを抑えて…。この距離感が大切です。大人が一步下がって、彼らの成長を「見守る。」そして、きっかけを掴むのを待つ。忍耐力ですね。彼らに学ばせてもらいましょう！

代表 瀬野 竜之介

『パートナー』

選手の皆さん、野球は一人では出来ません。野球では、様々な練習に(キャッチボール・トレーニング)パートナーが必要です。そのパートナーによって自分自身、相手選手の技術向上が左右されることもあります。

10月のテーマにもあるように、人に優しく出来る人がこれからの人生で良きパートナーに出会えると私は思います。それは、野球に限らず、仕事、恋愛、人生においても同じです。

自分自身を磨くことによって、良い人を引き寄せる『魅力ある人』になってこれからの人生を強く生き、豊かな人生を送れるように頑張ってください。

監督 土井 清史

『とにかくやってみる』

テスト期間、BB塾では多くの選手がテスト勉強をしに来てくれました。塾に入る前は、「テスト前、ほとんどしてません！」と正直に言っていた選手達(笑)。しかし、自習室を解放して、様子を見てみると、そう言っていた選手ほど、頻繁に塾に来てくれました。

野球も勉強も、とりあえずやってみることが大切です。自分で考えてやってみたことは、結果が出なくても、必ず次に繋がります。人に言われてやったことは、なかなか次に繋がりません。「言われたことをやったのに…。自分は悪くない。」そんな言い訳が出てきてしまいます。

堺BBでは野球、BB塾では勉強と、両方チャレンジできる環境があります。中学生の時に、ものごとをあきらめてしまうのはもったいないです。苦手だと思っていたことが得意になったり、嫌いなことが好きになったり、そんなことはこれからいくらでもあります。これからも、仲間とともに、何にでもチャレンジしていきましょう！

コーチ 岩井 健一

『毎年10月の祭典!』 コーチ 阪長 友仁

「野球されているんですね?じゃあ、どこのファンですか?」と聞かれたら答えに困る。特にここに勝ってほしいという球団がないから。「特にないけど強いて言うならジャイアンツかな。」と答えると、「え、大阪出身なのに阪神じゃなくて東京の球団なんですか?」と90%返ってくる。

「いえいえ、東京じゃなくてサンフランシスコですよ。」

海の向こうメジャーリーグもいよいよ大詰め。そのサンフランシスコ・ジャイアンツとカンザスシティ・ロイヤルズのワールドシリーズが始まっています。ドラフトの完全ウェーバー制や収益の一部を全チームに分配するなど、様々な戦力均衡策で全くどこが勝つかわからないメジャーリーグ。ロイヤルズは29年ぶりにプレーオフに出場し快進撃を続けています。一方のジャイアンツは日本のジャイアンツとは全く違って、投手中心の意外と地味なチーム。年俸総額も30球団中7番目とさほど高くありません。戦力均衡策の結果、2001年から2010年までの10年間で毎年優勝チームが違った大混戦の中で、2010年・2012年と優勝し、さらには2014年の優勝にも挑戦しています。そんなジャイアンツも2010年は56年ぶりの優勝だったというのも驚きです。

ワールドシリーズ初対戦となる両チームの戦いは全くどっちが勝つかわかりません。どっちが勝ってもいいけど、やっぱり強いと言うならジャイアンツかな(笑)。」

今宵はご家庭でもメジャーリーグトークなどはいかがですか?

『OB選手の声』 堺ビッグボーイズ26期生 藤川 堯史

BB通信をお読みの皆様こんにちは、堺ビッグボーイズ26期生、現慶応義塾大学1年生の藤川堯史と申します。

僕は中学校の3年間では森友哉(現埼玉西武ライオンズ)や、宮崎新(現明治大学)らのおかげで全国大会準優勝など数々の結果を残すことができました。僕も今でも野球を続けています。

僕が思う堺ビッグボーイズの特徴の一つ目は「自由」です。練習メニューの中に「自主練習」がありますが、これは僕が中学2年生の頃にスタートしたメニューです。監督、コーチが決めた練習をするのではなく、自ら考えメニューを決めます。これは野球界ではとても珍しいと思います。僕自身も最初は何をやっていいかわからず、周りと同じことをしていましたが時間がたつにつれて試合でた課題や自分の短所を克服するためにしっかりと自分で考えて練習に取り組むようになりました。この経験は今でも生かされています。また、監督、コーチから指導を受けますが強制的にやられることはありません。

これほど自由なチームにも徹底厳守事項があります。「あいさつ、返事は大きな声です」や「朝は自分起きる」などです。これらは中学生から先で必要なことです。僕も中学校3年間で、人として成長できました。

最後に現役の皆様、これからの活躍を期待しています。

■藤川堯史(26期生)慶応義塾高→慶応義塾大

堺ビッグボーイズ時代は背番号「1」を付け、森選手(埼玉西武ライオンズ)とバッテリーを組み、春季全国大会準優勝、選手権大会ベスト8、ジャイアンツカップ出場に貢献しながら、勉学にも励み慶応義塾高進学を果たす。現在は慶応義塾大の一回生として野球・勉学に励んでいます。

久富コーチがコーチ1年目に携わった学年で、選手達が様々な経験をさせてくれ、選手達に鍛えられました。

(1年生、川端君のお兄ちゃんもこの学年の選手です)

『感謝』 3年生 大藪和馬

現役を引退し、二年半のことを振り返ると自分達は、とても恵まれた環境で野球ができていたと思うと同時に、心のどこかで野球ができて当たり前だと思っていたことに気づきました。

友達と仲良くすることが苦手だった自分を受け入れ、共に笑い、共に涙してくれる仲間と一緒に野球ができること。

選手を第一に想い、選手として、人として成長させてくれた指導者の下で野球ができること。

父兄の方々、自分の親にサポート、応援してもらい、のびのび野球ができる環境を作ってもらえたこと。

今思えば、ビッグに入部してから感謝することばかりでした。

「ありがとう」を口にしないと小島さんは仰いました。

その大切さを自分は気づかせてもらいました。

一年生、二年生にも色々な大切なことに気づいてもらいたいです。

ビッグボーイズでの一期一会を大切に、これからも強く生きていきたいと思えます。

『親父の背中』 コーチ 久富 恵介

グラウンドで汗を流している保護者の方を見ると胸が熱くなることがあります。我子の練習・試合も見ずに誰に言われたでもなく作業を行って下さる方々、9、10月はグラウンドの草刈、壁当て工事の前準備など、水谷顧問を筆頭にお父さんチームが行って下さいました。

親の語るぬ背中をいくつになっても子供は見て、様々なことを感じています。

いつもありがとうございます。

BB塾

無料体験実施中!

個別指導: 10,000円/月~

場所: プロスペクト株式会社 3F

お問い合わせ: TEL 070-1218-8753

お気軽に岩井までお声掛けください!

